

株式会社 ユタカ製作所

2018 年度環境活動レポート

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日



発行日 2019年4月10日

《目次》

| | |
|----------------------|------|
| 1. 環境方針 | P-3 |
| 2. 事業活動の規模 | P-4 |
| 3. EA21 推進体制 | P-5 |
| 4. 環境目標とその実績 | P-6 |
| 5. 環境活動計画の取組みと評価 | P-8 |
| 6. 社会貢献 | P-13 |
| 7. 2019 年度 of 取組み内容 | P-15 |
| 8. 環境関連法規制の遵守 | P-16 |
| 9. 代表者による全体評価と見直しの結果 | P-18 |



1 環境方針

<基本理念>

私たちはますます深刻化する地球温暖化への対応が人類共通の重要な課題と認識し、環境への負荷低減に継続的に取り組み、環境との調和を図り積極的に環境保全活動を推進します。

<活動方針>

この理念のもと、当社製品の設計・開発、製造・販売及び付帯サービスの事業活動において環境負荷の低減を図るために、環境目標・活動計画を定め、定期的な見直し及び継続的な改善をするシステムを構築し、全従業員が自主的かつ積極的に環境保全活動を推進します。

1. 5 S活動・作業改善提案の推進により生産性を向上しエネルギー使用量(電力、燃料)の低減を図り、生産高あたりの温暖化ガス排出量の削減に努めます。
2. 環境保全意識の高揚に努め水使用量、紙使用量の削減に努めます。
3. グリーン購入を推進し、環境への負荷低減に努めます。
4. 廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)に取り組みます。
5. 環境関連の法や条例を遵守します。
6. 環境方針・環境目標・活動計画を全従業員に周知し、環境保全意識の向上に努めます。
7. 環境保全への取り組みを環境活動レポートとして取りまとめ公表します。

2018年4月1日
株式会社ユタカ製作所
代表取締役社長 石崎 昌義

2. 事業活動の規模

(1) 事業所および代表者名

株式会社 ユタカ製作所
代表取締役社長 石崎 昌義

(2) 所在地

本社 〒370-0883 群馬県高崎市剣崎町 68 番地
TEL : 027-343-7522 FAX : 027-343-7527

東京営業部 〒143-0016 東京都大田区大森北 1 丁目 5 番 1 号
TEL : 03-5763-9091 FAX : 03-5763-9094

大阪営業所 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田 2 丁目 8 番 10 号
TEL : 06-6373-3873 FAX : 06-6377-2285

(3) 環境保全関係の責任者および担当者連絡先

| | | |
|---------|----------|-------|
| 代表責任者 | 代表取締役社長 | 石崎 昌義 |
| 環境管理責任者 | EA21 事務局 | 竹内 斉 |
| 担当 | EA21 事務局 | 竹内 斉 |

TEL : 027-343-7522(代表) FAX : 027-343-7527

(4). 事業の内容

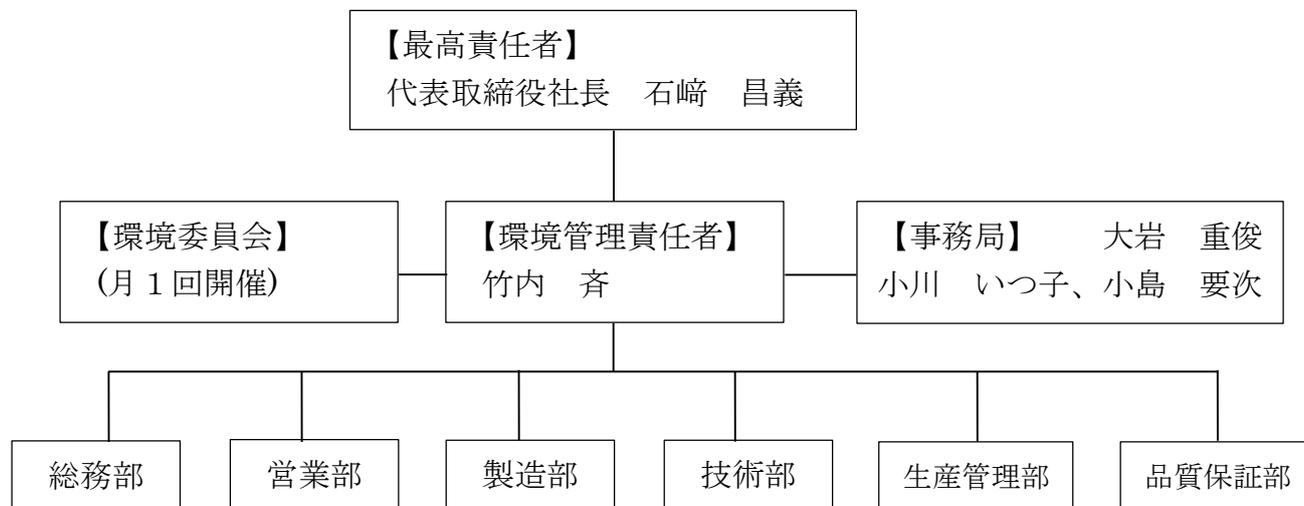
鉄道車両用電気連結器及び電気コネクタの設計・開発、製造及び付帯サービス
(点検・修理及び引取り修理)

5. 事業規模

| | |
|-------|------------------------|
| 従業員数 | 178 人 (派遣社員および役員を含む) |
| 延床面積 | |
| 本社 | 7,356.4 m ² |
| 東京営業部 | 242.6 m ² |
| 大阪営業所 | 113.9 m ² |

3. EA21 推進体制

2018 年 4 月 1 日



| 職名 | 役割 |
|---------------------------------|--|
| 最高責任者 代表取締役社長 石崎 昌義 | ① 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ② エコアクション 21 の構築・運用・維持に必要な経営資源(人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む)を準備する。 ③ 環境方針を制定する。 ④ エコアクション 21 の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。 |
| 環境管理責任者 竹内 斉 | ① エコアクション 21 に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ② エコアクション 21 の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。 |
| 事務局 大岩 重俊 小川 いつ子 小島 要次 | ① 事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション 21 に関する実務全般を所管する。 |
| 環境委員会 | ① 最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月 1 回環境管理責任者が招集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。 |

4. 環境目標とその実績

基準値として直近2年間（2016年4月～2018年3月）の平均環境負荷実績を把握するとともに、今年度および2020年度までの中期の目標を以下のとおり定め、2018年4月1日より活動を開始しました。

| 環境目標 | 基準値 2016～ 2017年 度平均 | 2018年度目標 | | 中期 2020年度 目標 | 環境活動計画 実施事項 |
|--|------------------------------|-------------|---------------------------------------|----------------------------|---|
| | | 目標 | 実績 | | |
| 生産実績百万円当たりのCo2排出量の削減 【kg/百万円】 | 153 kg (※) | 基準値比 -1% | 基準値比 -4.6% 146kg (※) | 2016～2017 年度平均 比 -3% | ①空調温度適正化・表示 ②照明不要時消灯の推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥提案活動等の生産効率向上への取組 ⑦再発防止対策等の不良削減の取組 ⑧適正な設計による手戻りの削減 |
| 生産実績百万円当たりの廃棄物排出量の削減 【kg/百万円】 | 22.4kg | 基準値比 -1% | 基準値比 +4.5% 23.4 kg | 2016～2017 年度平均 比 -3% | ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認 ④マニフェスト管理の徹底 ⑤紙使用量の削減 |
| 従業員1人当たりの水資源投入量の削減 【m ³ /1人】 | 9.3 m ³ | 基準値比 -1% | 基準値比 +10.8% 10.3 m ³ | 2016～2017 年度平均 比 -3% | ①節水表示(手洗い場・トイレ) ②水道関連設備の検討 ③トイレの節水 |
| 化学物質の管理の徹底 | — | 管理状況の整理 | — | 管理の徹底 | ①使用量の把握 ②保管場所の整理 ③SDSの整理 ④化学物質取扱いに関する教育 |

| 環境目標 | 基準値 2016～ 2017年 度平均 | 2018年度目標 | | 中期 2020年度 目標 | 環境活動計画 実施事項 |
|---------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|---------------|--------------------|---|
| | | 目標 | 実績 | | |
| リサイクルを 考えた設計 (新設計品) | — | リサイク ル可能な 材料使用 率 80% 以上 | 90.1% (重量) | | |
| グリーン調達 推進 | — | 管理の徹 底 | — | 管理の徹底 | ①使用禁止物質の抽出 ②使用禁止物質不使用証明 書提出願い発行 ③使用禁止物質不使用証明 書提出願い回収 ④使用禁止物質の含有量把 握 |
| グリーン購入 推進 (グリー ン商品の購入 比率の向上) | 52% | 基準年度 と同等以 上 | 43% | 52% | ① グリーン商品購入検討 ② グリーン購入比率調査 |

※ 購入電力の排出係数は 2013 年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数（東京電力） 0.530 kg-CO2/kwh を使用しています。

（過去の取組実績） 前年度までの 5 年間の実績は下記の通りです。

| 環境目標 | 2013年 度実績 | 2014年 度実績 | 2015年 度実績 | 2016年 度実績 | 2017年 度実績 |
|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 生産実績百万円当たりの Co2 排出量【kg/百万円】 | 243 | 207 | 163 | 152 | 156 |
| 生産実績百万円当たりの廃棄物排出量【kg/百万円】 | 36.6 | 34.7 | 29.7 | 21.6 | 23.3 |
| 従業員 1 人当たりの水資源投入量【m ³ /1 人】 | 12.2 | 10.8 | 10.0 | 9.4 | 9.2 |
| リサイクル可能部品重量割合(新設計品)【%】 | 88.4 | 該当無し | 該当無し | 該当無し | 90.1% |
| グリーン商品の購入比率【%】 | — | 46% | 50% | 51% | 53% |

※ 購入電力の排出係数は 2013 年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数（東京電力） 0.530 kg-CO2/kwh を使用し、再計算しています。

5. 環境活動計画の取組みと評価

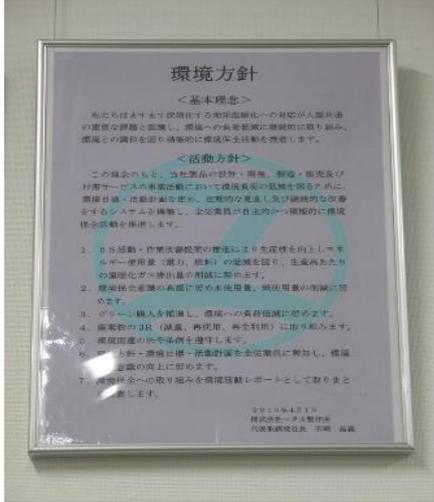
(1) 環境活動計画の達成および取組み状況

| 活動計画・達成状況 | 環境活動計画の取組み状況 |
|---|--|
| <p>(生産実績百万円当たりの二酸化炭素排出量の削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 2016～2017 年度平均比 1%削減 ・ 目標達成状況 達成 4.6%削減 | <p>繁忙期が続きましたが、空調の適正使用などの節電に努めてきました。しかし、7月～8月にかけては暑さが厳しく冷房による電気使用量が増加しました。また、増産により製造設備の使用電力が増加しました。その結果、年間 CO2 総排出量は 449 トンとなり、基準年度比で 4.4%増加しました。しかし、生産の効率化などにより、生産実績がそれを上回る 9.2%増加したことから、生産実績百万円当たりの Co2 排出量は基準年度比で目標値を大きく上回る 4.6%削減することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化炭素総排出量の 98%を占める電気による二酸化炭素排出量は 439 t となり、基準年度比 20 t (4.8%) 増加しました。 ・ 第2の二酸化炭素排出源であるガソリンの使用量は、基準年度比 10%と大きく減少しました。これは、出張による社用車の使用頻度が減ったためと思われます。 ・ これらのことにより、目標を大きく上回る結果を残すことができました。今後とも節電などにより二酸化炭素の削減に努めてまいります。 |
| <p>(生産実績百万円当たりの廃棄物排出量の削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 2016～2017 年度平均比 1%削減 ・ 目標達成状況 未達成 4.5%増加 | <p>廃棄物の削減、リサイクル、および分別に努めてまいりましたが、生産実績百万円当たりの廃棄物排出量は基準年度比 4.5%の増加となり、目標を達成できませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物総排出量は 72 t となり、生産実績の伸びを上回る 14.3% (9 トン) 増加しました。 ・ 今期は特別な増加要因は見当たりませんが、基準年度比では産業廃棄物、ダンボール紙、および有価物で増加傾向が見られました。 ・ 有価物は切粉を中心に増加しました。 ・ 産業廃棄物は主にパレットや木枠の木くずが増加しました。 |

| 活動計画・達成状況 | 環境活動計画の取組み結果の評価 |
|--|---|
| (水資源投入量の削減) ・ 目標 2016～2017 年度平均 比 1 %削減 ・ 目標達成状況 未達成 10.8%増加 | トイレや手洗い場などで、地道に節水に努めてまいりましたが、従業員一人当たりの水資源投入量は基準年度比で10.8%の増加となり、目標を達成できませんでした。雨不足で春先に植え替えた緑地帯の芝生に散水が必要になり、水道使用量の増加につながりました。今後も節水や水道設備の適正な管理を行い、水資源の削減に努めていきます。 |
| (化学物質の管理徹底) ・ 目標 管理状況の整理 ・ 目標達成状況 達成 | 化学物質の管理については、PRTR 対象物質使用量の把握、保管状況の管理、SDS の整備などに取り組んでおります。今後とも引き続き使用量の把握と SDS 管理等、適正な管理を行っていきます。 |
| (リサイクルを考えた設計) ・ 目標 新設計品のリサイクル 可能な材料使用率 80%以上 ・ 目標達成状況 達成 90.1% | 今期は対象となる新設計製品が 5 製品あり、これら全ての製品において目標のリサイクル可能な材料の使用率 80% (重量比) を上回りました。平均のリサイクル可能材料の使用率は 90.1%でした。今後も引き続き設計に当たりリサイクル可能な材料を使用するように心がけていきます。 |
| (グリーン調達推進) ・ 目標 管理状況の整理 ・ 目標達成状況 達成 | 材料に含まれる使用禁止物質の含有率把握まで完了しております。今後も材料に含まれる使用禁止物質について継続的に把握していきます。 |
| (グリーン購入推進) ・ 目標 グリーン商品購入比 率 2016～2017 年度 平均比同等以上 52% ・ 目標達成状況 未達成 43% | グリーン商品購入比率は、基準年度を下回り目標未達になりました。今期は文具や消耗品の購入において、なるべくグリーン商品を購入するように見直しを進め、グリーン商品購入比率の向上を図っていきます。 |

(2) 具体的な環境活動例

○二酸化炭素排出量削減の取組み



環境方針を掲示し、従業員に周知

駐車場にアイドリングストップの励行を呼びかける看板を設置。



照明のこまめな節電を呼びかけました。エアコンの温度管理方法についても見直し、掲示しました



会議等、1時間以上離席する場合
や昼休憩時にパソコンの電源を
OFFにするよう呼びかけた。



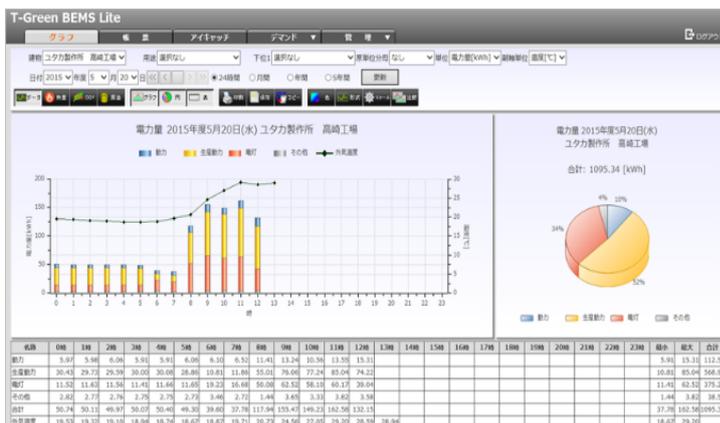
○二酸化炭素排出量削減の取組み(続き)



太陽光発電システムのパネル清掃
も実施し、発電効率の維持に努め
ました。



駐車場の照明にソーラー街路灯
を採用。



電力監視システムの導入により、
社内の消費電力を監視、
見える化し、社内啓蒙・省エ
ネ改善を行いました。

○廃棄物排出量削減の取組み

個人認識システムの活用により、不要印刷を削減。



一般廃棄物、産業廃棄物の分別のルール化。



廃棄物保管庫を整備することで廃棄物の保管状況を適正に管理。

○水資源投入量削減の取組み

節水を呼びかけるポスターを作成し、従業員に周知しました。



場内各水道に節水アダプターを取付けて節水。



トイレに擬音装置を設置し、水を流す回数の削減によって排水量を削減。



6. 社会貢献

○企業参加の森林づくり

群馬県が企画している「企業参加の森林づくり」に参加し、二酸化炭素吸収、環境貢献、生物多様性保全に取り組んでいます。今期も群馬県高崎市にある観音山キャンプパークジョイナスにおいてオートキャンプ用テントサイトの補修に取り組みました。

< 第一回活動 オートキャンプ テントサイトの補修 >



<第2回活動 集合写真>



○緑の募金

緑化の啓発、環境緑化、緑の少年団の育成、森林整備、緑化運動の推進を目的とした「緑の募金」に参加しています。本年度も、社員と会社からのものを合わせ、募金を行いました。



7. 2019 年度の取組み内容

当社における 2017~2018 年度(2017/4/1~2019/3/31)の環境負荷実績を把握し、2019 年度の目標を以下のとおり定め、2019 年 4 月 1 日より活動を開始しました。

| 環境目標 | 基準値 2017~2018 年度 実績平均値 | 2019 年度目標 | 環境活動計画実施事項 |
|---|------------------------------|-----------------------------|--|
| 生産実績百万円当たりの Co2 排出量の削減 【kg/百万円】 | 134 kg ※ | 左記基準比 1 %削減 | ①空調温度適正化・表示 ② 照明不要時の OFF の推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥提案活動等の生産効率向上への取組 ⑦再発防止対策等の不良削減の取組 ⑧適正な設計による手戻りの削減 |
| 生産実績百万円当たりの廃棄物排出量の削減 【kg/百万円】 | 23.3 kg | 左記基準比 1 %削減 | ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認 ④マニフェスト管理の徹底 ⑤紙使用量の削減 |
| 従業員 1 人当たりの水資源投入量の削減 【m ³ /1 人】 | 9.9 m ³ | 左記基準比 1 %削減 | ①節水表示(手洗い場・トイレ) ②水道関連設備の検討 ③トイレの節水 |
| 化学物質の管理の徹底 | — | 管理状況の整理 | ①使用量の把握 ②保管場所の整理 ③SDS の整理 ④化学物質取扱いに関する教育 |
| リサイクルを考えた設計(新設計品) | — | リサイクル可能な材料の使用率(製品重量の 80%以上) | ①使用材料の材質確認 ②リサイクル可能部品重量の把握 |

| 環境目標 | 基準値 2017~2018年度 実績平均値 | 2019年度目標 | 環境活動計画実施事項 |
|--------------------------------------|-----------------------------|---------------|---|
| グリーン調達 推進 | — | 管理の徹底 | ①使用禁止物質の抽出 ②使用禁止物質不使用証明書提出 願い発行 ③使用禁止物質不使用証明書提出 願い回収 ④使用禁止物質の含有量把握 |
| グリーン購入 推進（グリーン 商品の購入 比率の向上） | 48% | 左記基準と同等以 上 | ①グリーン商品購入検討 ③ グリーン購入比率調査 |

※ 購入電力の排出係数については、2017年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数を使用
しています。2018年12月より電力のサプライヤーを「アーバンエナジー」に変更して
います。

| (使用実績年度) | (事業者) | (係数) |
|-------------|----------|------------------|
| 2017~2018年度 | TEPCO | 0.474 kg-CO2/kwh |
| 2019年度 | アーバンエナジー | 0.458 kg-CO2/kwh |

8. 環境関連法規制の遵守

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

| 法規制等の名称 | 遵守事項 | 遵守状況 |
|----------------------|--|------|
| 水質汚濁防止法 | ・油などの流出事故無し ・廃油などの適正な排出 | 遵法 |
| 騒音規制法 | ・計測証明書の入手 ・高崎市への特定施設の種類の 届出および適正管理 | 遵法 |
| 振動規制法 | ・計測証明書の入手 ・高崎市への特定施設の種類の 届出および適正管理 | 遵法 |
| 廃棄物の処理及び清掃 に関する法律 | ・マニフェストの管理と高崎市への 適正な報告 ・産業廃棄物保管場所の整備 ・産業廃棄物取扱業者との契約締結 | 遵法 |

| 法規制等の名称 | 遵守事項 | 遵守状況 |
|--------------|---|------|
| P R T R 法 | <ul style="list-style-type: none"> 対象化学物質の把握 年間使用量の適正な届出の実施 | 遵法 |
| 労働安全衛生法 | <ul style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会の開催 特定健診断、定期健康診断など各種健康診断の実施 年2回の作業環境測定の実施 | 遵法 |
| 消防法 | <ul style="list-style-type: none"> 消防署への危険物貯蔵取扱の届出 消防用設備の届出と管理 消防計画の作成および届出 年2回 消防訓練の実施 | 遵法 |
| 群馬県地球温暖化防止条例 | <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップの周知 | 遵法 |
| 高崎市公害防止条例 | <ul style="list-style-type: none"> 適用される新たな規制がないかを監視 | 遵法 |
| 工場立地法 | <ul style="list-style-type: none"> 緑地率や建物などの届出の実施 | 遵法 |
| フロン排出抑制法 | <ul style="list-style-type: none"> 第1種特定製品の適正な整備、簡易点検、定期点検、およびその記録の保管 第1種特定製品の適正な廃棄 | 遵法 |
| グリーン購入法 | <ul style="list-style-type: none"> 文具・工具などの購入にあたり、グリーン商品の購入に努める | 遵法 |

(2) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2019年4月10日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。また、関係機関からの違反等の指摘はなく、訴訟等もありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2018年4月にエコアクション21ガイドライン2017年版に則り環境経営マニュアルを改定し、新マニュアルに沿って運用を開始しました。エコアクション21に取り組んで9年が経ち、節電意識及びリサイクル意識の向上、廃棄物分別ルールの遵守など、社員全体の環境意識も大幅に向上し、エコアクション21の取組みが定着しました。設備面でも2015年度にエネルギー効率の良い新社屋が全て完成し、旧設備と比較して大幅に環境への負荷削減を実現できる体制が整ったことが確認できました。新社屋での環境関連数値について詳細の把握が進み、増減の要因が把握できるようになっています。

先ず、生産実績百万円当たりの二酸化炭素排出量は、基準年度（直近2年間の平均値）比1%削減の目標に対して実績は4.6%削減となり、目標を大きく上回る数字を達成することが出来ました。二酸化炭素排出量の凡そ98%を占める電気の使用量は、夏場の酷暑によるエアコン利用や、増産による生産設備の電気使用量が4.8%増加しました。しかし、新規製造機械導入による生産効率化等により、生産実績はそれを上回る9.2%伸長できたことが目標の達成につながりました。出張時の社用車利用が減少したこと等により、ガソリン使用量は昨年度比10%と大きく削減できました。

生産実績百万円当たりの廃棄物排出量は、基準年度比1%削減の目標に対して実績は4.5%増加し、残念な結果となりました。廃棄物の総排出量は、基準年度比で生産実績の伸びを上回る14.3%増加しました。廃棄物の種類別にみると、有価物、産業廃棄物、段ボールが増加しました。今後も適正な分別によるリサイクルや、廃棄物排出量の削減に努めるとともに、老朽化している廃棄物処理関連の設備も順次整備して行きたいと考えています。

水資源使用量は植え替えた緑地帯芝生への散水により増加しました。グリーン購入推進は残念ながら目標を達成できませんでした。化学物質の管理、グリーン調達推進などの目的は当初の目標通りの成果を収めることができました。

2019年度は、更に繁忙期が続きます。過去2年間の平均を基準値とし、不良品などのムダを発生させない様に留意するとともに、日頃の地道な努力を積み上げることで環境負荷の低減を積極的に推進してまいります。

2019年4月10日

株式会社ユタカ製作所

代表取締役社長 石崎 昌義